

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

※以下、国立感染症研究所ホームページより抜粋

○重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

SFTSは2011年に中国の研究者らによって発表されたブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新しいウイルスによるダニ媒介性感染症である。2013年1月に国内で海外渡航歴のない方がSFTSに罹患していたことが初めて報告され、それ以降他にもSFTS患者が確認されるようになった。SFTSウイルス（SFTSV）に感染すると6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多くの中例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こす。検査所見上は白血球減少、血小板減少、AST・ALT・LDHの血清逸脱酵素の上昇が多くの中例で認められ、血清フェリチンの上昇や骨髄での血球貪食像も認められることがある。致死率は6.3～30%と報告されている。感染経路はマダニ（フタトゲチマダニなど）を介したもののが中心だが、血液等の患者体液との接触により人から人への感染も報告されている。治療は対症的な方法しかなく、有効な薬剤やワクチンはない。



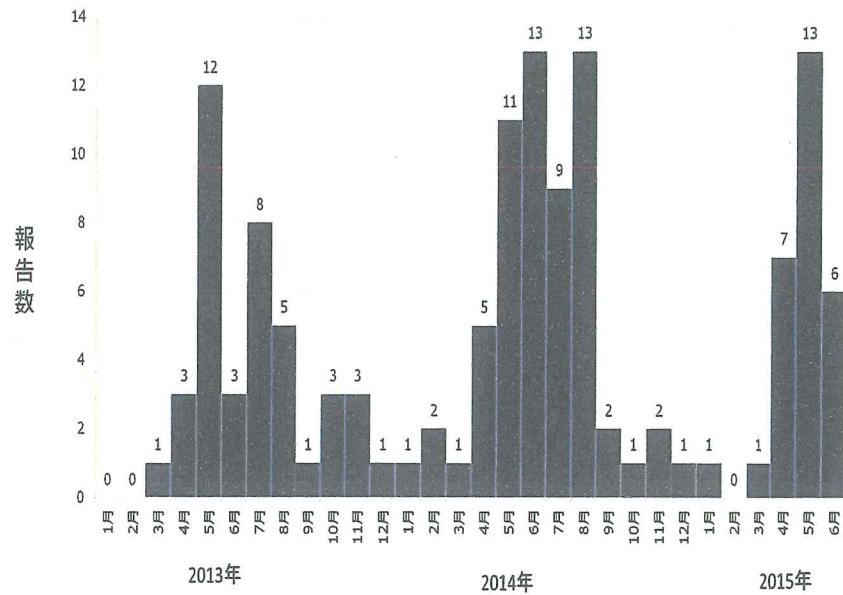
○感染症発生動向調査で届出られたSFTS症例の概要（2015年7月1日現在）

①基本情報

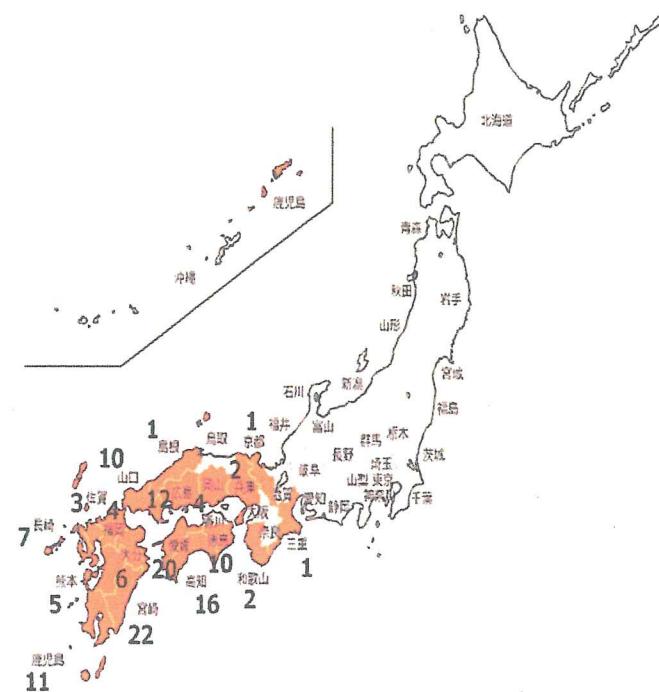
		生存例	死亡例	合計
報告数		99	38	137
性別	男	40	15	55
	女	59	23	82
年齢	中央値	72歳	80.5歳	73歳
	~20代	2	0	2
	30代	2	0	2
	40代	2	0	2
	50代	8	2	10
	60代	29	6	35
	70代	27	10	37
	80代	26	17	43
	90代～	3	3	6

※死亡は感染症発生動向調査の届出時点の情報であり、経過中の死亡は報告されていない可能性がある。

②2013年1月1日以降に発症したSFTS症例の発生時期（n=129）



③ SFTS 症例の発生（感染）地域（n=137）



○福岡県におけるSFTSの発生状況（※福岡県ホームページより抜粋）

2013年1月に国内で海外渡航歴のない方がSFTSに罹患していたことが初めて報告されて以降、西日本からの報告が相次いでいます。

福岡県内でも、平成27年5月19日に、SFTSの患者が初めて確認され、平成27年6月30日現在、4例報告されています。

年	平成25年	平成26年	平成27年
福岡県	0	0	4

※県内発症者内訳（報道発表資料より）

年齢	性別	居住地	発症日	症状	転記
30歳代	女性	糟屋郡	5月12日	発熱、下痢、頸部リンパ節腫脹等	
5歳	女児	京都郡	5月30日	発熱、嘔吐、左耳介後部リンパ節腫脹等	6月2日入院 6月9日退院
80歳代	女性	宮若市	6月15日	嘔吐、下痢、倦怠感、発熱等	6月24死亡
88歳	女性	北九州市門司区	6月16日	発熱、咳、食欲低下、倦怠感等（白血球・血小板減少認める）	6月20日死亡

マダニに注意しましょう

平成27年5月19日、重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome: SFTS)の患者が県内で初めて確認されました。

SFTSの主な感染原因は、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染するとされています。(すべてのマダニがこのウイルスを持っているわけではありません。また、このほかにも、マダニが媒介する感染症には、日本紅斑熱やライム病が知られています。)

マダニは春から秋にかけて活動が活発になりますので、以下のことを参考に、感染を予防しましょう。(これらの予防方法はツツガムシにより感染するつつが虫病の予防にも有効です。)

1. マダニの生息場所



マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。



マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。



ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間(10日間以上のこともある)吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置(マダニの除去や消毒など)を受けて下さい。

マダニに咬めたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

2. マダニから身を守る服装

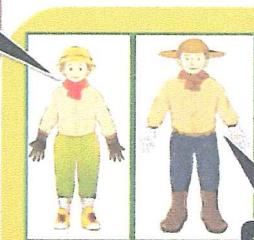
野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。



半ズボンやサンダル履きは不適当です！

ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。



シャツの裾はズボンの中に入れましょう。

農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れましょう。

4. 忌避剤の効果

海外ではマダニ対策に忌避剤(虫よけ剤)が使用されていますが、日本には、マダニ用に市販されている忌避剤は今のところありません。

日本では、ツツガムシ(ダニ目ツツガムシ科)を忌避する用途で、衣服に塗布して使用する忌避剤(医薬品)が複数市販されています。

このような忌避剤を使用し、マダニに対して一定の忌避効果が得られることが確認されました。



ディート(忌避剤)の使用でマダニ付着数は減少しますが、マダニを完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

出典 国立感染症研究所昆虫医学部

詳細な情報は県ホームページをご覧ください。

福岡県 マダニ

検索

福岡県



◆ 最新の感染症発生情報

[《インフルエンザ報告状況マップ》](#)

[《疾患別 推移グラフ》](#)

第27週 (H27.6.29～H27.7.5)

■今週のトピックス

▽ 今週(第27週:6/29-7/5)は夏期に多発するヘルパンギーナが連続増加していますが、手足口病、咽頭結膜熱は横ばいです。今週はRSウイルス感染症が増加しました。伝染性紅斑は増減を繰り返しますが多発が続きます。感染性胃腸炎は減少中でロタウイルス、ノロウイルスの報告がありますが多くはありません。

病名	報告数	前週比	主な増加地区等	1点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	7	±0	筑後4、福岡3	0.04	0.11
RSウイルス感染症	49	223%	福岡35、北九州10	0.41	0.08
咽頭結膜熱	111	97%	福岡73、筑後19	0.93	0.74
A群溶連菌咽頭炎	369	79%	福岡230、北九州77	3.08	3.03
感染性胃腸炎	605	85%	北九州256、福岡199	5.04	5.80
水痘	52	87%	福岡34、北九州11	0.43	0.45
○ 手足口病	851	98%	福岡520、北九州233	7.09	4.56
伝染性紅斑	164	90%	福岡105、北九州45	1.37	1.12
突発性発しん	100	94%	福岡53、北九州21	0.83	0.68
百日咳	2	-5	福岡2	0.02	0.02
風しん	0	±0		0.00	
○ ヘルパンギーナ	875	122%	福岡543、北九州191	7.29	1.49
麻しん	0	±0		0.00	
流行性耳下腺炎	126	80%	筑後44、福岡41	1.05	0.56
川崎病(MCLS)	5	-3	福岡3、筑後1	0.04	
○ マイコプラズマ肺炎	48	+14	福岡37、北九州6	0.40	0.26
クラミジア肺炎	1	±0	北九州1	0.01	0.02
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.01
無菌性髄膜炎	4	+4	北九州4	0.03	0.03
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	1	+1	筑後1	0.04	0.01
流行性角結膜炎	37	61%	福岡21、北九州11	1.42	0.77
性器クラミジア感染症	17	+5	福岡9、北九州7	0.46	
性器ヘルペス	16	+9	福岡9、北九州4	0.43	
尖圭コンジローマ	6	+4	福岡5、筑後1	0.16	
淋菌感染症	11	+6	福岡5、筑後3	0.30	
梅毒	1	+1	筑後1	0.03	

全国情報は平成27年26週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎121、クラミジア肺炎10例。

平成27年第26週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核11590(県内550)、コレラ3、細菌性赤痢69(県内2)、腸管出血性大腸菌感染症866(今週106、県内76)、腸チフス20(県内0)、パラチフス22、E型肝炎94、A型肝炎143(今週6、県内6)、オウム病4、SFTS28(県内4)、チクングニア熱10、つが虫病67、デング熱112(県内3)、日本紅斑熱60、日本脳炎0(県内0)、マラリア16(県内1)、レジオネラ症594、アメバ赤痢526、ウイルス性肝炎119(県内4)、急性脳炎264(県内13)、クロイツフェルト・ヤコブ病86、劇症型溶レン菌感染症237(県内8)、後天性免疫不全症候群679(県内29)、侵襲性インフルエンザ菌感染症124(県内3)、侵襲性髄膜炎菌感染症18、侵襲性肺炎球菌感染症1361(県内66)、水痘(入院)147(県内14)、先天性風しん症候群0、梅毒1073(県内35)、風しん96(今週2、県内5)、麻しん24(今週0、県内1)例。1類感染症の報告はない。

